

アノテーション=正常終了！

T2SSNYPC1LDT008

Wed Sep 20 17:55:52 2023

@小組一件

2678

100.00%

◎難波妙230924付

符丁=山陽新聞読んで



「アオハル」って知ってますか？とAMDAのスタッフに聞かれた。「何、それ？」と私。青春を訓読みし、さらに「みずみずしさ」や「エネルギーギッシュ」など、思春期をより一層連想させる言葉だぞうだ。高校野球のマネジャーをしている20代スタッフが、甲子園の応援や文化祭で、仲間と一体となつてはじけるあの高揚感ですよ、と説明してくれた。私が「アオハル」だった頃を思い起こすと、岡山では「燃える岡山 県民運動」が掲げられていた。

【段】
「アオハル」世代の活躍を取り上げた山陽新聞の6記事から、彼らの主体性に基つた感性の豊かさを感じた。7月31日付の社説では、岡山県和気町

山陽新聞を~~読~~んで

AMDA理事 難波妙



「アオハル」の風

のまちづくりに、当事者活動の中で、私自身が高校生から学んだことを反映することで地元にも多い。

2018年、西日本豪雨災害の際、総社市の災害対策本部のメンバーとして、支援物資の配布を仕切る高校生ボランティアがいた。かつては、将来の夢は？と聞かれたら、多くの場合、職業を答え、先達風となるだろう。山陽

徒が小中学生を対象に、も足さない、何も引かない報告は、気持ち悪いほど潔かった。今年8月、ネパール研修に参加したAMDA中学生のメンバー2人は、他者理解をしよ映る。

8月27日付山陽新聞が、彼らの思考力の深さを物語る。これまでのAMDAの、減災や復興まで含

めた日本の防災をそめたような「多様性」の国に特化した独自の新しい風が、政治の世の旧弊を打破し、その景色を変えてくれるのではないかと期待を寄せている。そんな「アオハル」世代の風は社会を大きく変化させ、

「山陽新聞を読んで」は月2回、日曜日に掲載します。